

厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
分担研究年度終了報告書

医療従事者研修

研究分担者 氏家 無限 国立国際医療研究センター 国際感染症センター
研究分担者 森岡慎一郎 国立国際医療研究センター 国際感染症センター
研究分担者 忽那 賢志 国立国際医療研究センター 国際感染症センター

研究要旨 本課題ではセミナー及び研修会の開催および e-learning 動画の公開を行った。新興再興感染症に関する研修として、国際感染症セミナーと一類感染症オンライン研修会を実施した。国際感染症セミナーは2021年12月7日に開催、参加登録者数が263名であった。一類感染症オンライン研修会は2022年2月19日開催に開催し、参加登録者数が500名と定員に達した。

A. 研究目的

ウイルス性出血熱、鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群などの新興再興感染症、輸入感染症は日本国内では稀な感染症であり、十分な知識を持つ医療従事者は多いとは言えない。本分担研究の目的は、これらの新興再興感染症の診療に関わる可能性のある医療従事者に、感染対策や診断治療などの情報を提供し知識をアップデートすることで患者の発生に備えることである。

B. 研究方法

研修会の開催

2021年度国際感染症セミナー及び一類感染症オンライン研修会を開催した。新型コロナウイルス感染症流行下のため、どちらもオンライン開催した。一類感染症オンライン研修会は開催後にオンデマンド配信した。

(倫理面への配慮)

本研究は協力施設の同意のもとで実施されており、患者および医療従事者に関する個人情報の取り扱いには発生しない。

C. 研究結果

セミナーおよび研修会の講演テーマ、講師については以下の通りである。

■国際感染症セミナー

開催日時：2021年12月7日18:00～19:30

テーマ：*Mycoplasma genitalium*

講演者：国立国際医療研究センター国際感染症センター 宮里悠佑

参加者のうち73名がアンケートに回答、うち89%（65名）がセミナー内容に関し大変満足あるいは満足と回答。回答理由としては

「*Mycoplasma genitalium*に関する知識を身に着けることができた」（51名）「*Mycoplasma genitalium*に関する情報を整理できた」（39名）であった。

■一類感染症オンライン研修会

開催日時：2022年2月19日13:00～16:10

研修会プログラム内容および講演者：

1. 指定医療機関の体制レビュー（国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター長 齋藤智也）
2. 一類感染症アップデート（国際医療福祉大学 医学部感染症学教授 加藤康幸）
3. エボラウイルス病総論（国立国際医療センター病院国際感染症センター国際感染症対策室 医長 森岡慎一郎）
4. エボラウイルス病の感染予防管理（東北大学病院感染管理室室長 徳田浩一）

5. エボラウイルス病の治療（りんくう総合医療センター感染症センター長 倭正也）
6. エボラウイルス病のワクチン（国立国際医療研究センター病院国際感染症センタートラベルクリニック医長 氏家無限）

参加者のうち 174 名がオンライン研修会聴講後のアンケートに回答、うち 92%(160 名)が研修会内容に関し大変満足あるいは満足と回答。回答理由としては「一類感染症に関する知識を身に付けることが出来た」(82 名)「一類感染症に関する情報を整理できた」(88 名)であった。2022 年 3 月 9 日から 3 月 31 日まで国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター薬剤耐性 (AMR) 対策 e ラーニングシステムにて研修会の動画をオンデマンド配信したところ、のべ 72 名が視聴した。

D. 考察

本分担研究では、2021 年度はオンラインにてセミナーおよび研修会を開催した。国際感染症セミナーは、国際的に問題となる感染症や感染症の分野で新たに明らかになりつつある感染症などをトピックとして取り上げ、必要な感染症予防や治療のための知識を共有することで地域の国際感染症における診療連携・協力体制を築くことを目的としている。2021 年度は難治・再発性尿道炎や子宮頸管炎の原因となり、近年薬剤耐性が注目されている *Mycoplasma genitalium* に関してセミナーを行った。一類感染症オンライン講習会は、現在世界中で新型コロナウイルス感染症が流行し国外の行き来は限定的になっているが新型コロナウイルス感染症流行前のような国外への往来に徐々に戻る傾向があり、一類感染症が日本へ持ち込まれる可能性は十分に考えうるため、特にエボラウイルス病を中心とした一類感染症に関する研修会を開催した。

昨年度同様 2021 年度は実地での研修会開催は困難となったため、オンラインで開催した。オンライン開催の強みとして、遠方からでも研修会に参加できる点があり、参加者からは今後もオンライン開催を望む声が聴かれた。また開催後にオンデマンドでセミナーや研修会の動画を公開して欲

しいという声もあり、一類感染症オンライン研修会に関しては、国立国際医療研究センター AMR 臨床リファレンスセンター薬剤耐性 (AMR) 対策 e ラーニングシステムにて研修会の動画を公開した。

2019 年度のオンサイトでの輸入感染症講習会、動物由来感染症講習会、一類感染症受け入れ体制整備研修会の受講者はそれぞれ 89 名、11 名、187 名であったことと比べれば、これまでと比べ多くの医療従事者に学びの機会が提供できたことは昨年度同様オンライン開催の成果と考えられる。来年度は、新型コロナウイルス感染症の流行状況を見ながら、オンサイトでの開催、オンライン開催、もしくは併用について検討したい。

E. 結論

本課題では医療従事者の感染症研修を行った。昨年度同様、オンサイトでの講習会・研修会の開催が困難となったため、本年度もオンラインでの e-learning 形式で開催することとした。

国内での国際感染症における診療連携・協力体制の強化、および国外への渡航解禁による一類感染症患者への対策を踏まえた、一類感染症に関する知識や、各医療機関での取り組みを医療従事者間で共有することは非常に重要である。今後の新興再興感染症の流行に備え各感染症に関する知識をアップデートする必要があることから、これまでと比べ多くの医療従事者に学びの機会が提供できたことは本年度の成果と考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし